

「地域の子どもと学童保育の歴史研究会」(仮称)のお知らせ

日本学童保育学会は、2018年6月に開かれた研究大会において、はじめて学童保育の歴史をテーマとするシンポジウム「学童保育の源流を探る—歴史に学び、地域のなかで学童保育とは何かを問う—」を開きました。すでに学会では歴史研究部会を立ちあげていましたが、これを機に少人数でも定期的な研究会を続けていくことにしました。この度、第1回の研究会を開催することとしましたのでお知らせいたします。

会員はもちろん、会員以外の方でも参加できます(会員でない方には、別途、資料代のみいただくことがあります)。今回は、平日での開催となりますが、ぜひ、積極的にご参加ください。申込み・問い合わせは、石原剛志 (komatsunapapa@gmail.com) までお願いいたします。

日時：2018年10月5日(金) 13時～15時(終了時刻は予定)

会場：早稲田大学戸山キャンパス(新宿区戸山1-24-1)

39号館4階第4会議室

報告：黒澤ひとみ会員「1920～30年代の東京における不
就学・長欠児問題と『積極的』社会事業の広がり」

隣保館やセツルメントの児童クラブや図書館を「学童保育の源流」としてみたととき、その実践は、すでに就学が実現している子どもたちの「放課後」の問題のみならず、就学が不安定で学校教育から排除された子どもたちの生活と発達の課題(教育上の課題も含む)と向き合っていたと思われます。こうした視点から、黒澤ひとみ会員に、ご自身のこれまでの研究もふまえて、ご報告いただきます。

【黒澤ひとみ会員関連主要著作・論文】松永健哉の校外教育論に関する研究—『児童問題研究』における理論展開を中心に—(『日本社会教育学会紀要』第44号、2008年)、『校外教育』に関する研究—『指導』と『保護』をめぐる歴史的展開に注目して—(博士学位論文、2012年)、「子どもの成長発達権と保育—『養護』と『教育』の構造的連関に着目して—」(『現代と保育』第86号、2013年)、「排除される家族と子育て支援ネットワーク」(『自治の力を育む社会教育計画』国土社、2014年)、「新自由主義下の家庭と子育て—保育における子育て支援の課題を探る」(『愛知保育問題研究』第27号、2018年)、『子どもの貧困』問題の背後に親の『労働』問題がある」(『保育問題研究』292号、2018年)、「保育の制度」(『未来を創る教育制度論』北樹出版、2013年)。

【問い合わせ・申込み先】

石原剛志(本学会理事・歴史研究部会事務局)

〒422-8529 静岡市駿河区大谷8-3-6 静岡大学教育学部 石原剛志研究室

電話 054-238-5018 e-mail : komatsunapapa@gmail.com